学校番号	1202

令和８年度　理科

教科	理科	科目	（学）物理一般	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高等学校　新物理基礎」（第一学習社）						
副教材等	「ネオパルノート　物理基礎」（東京書籍）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法など）

・１年間の前半は教科書とプリントを用いて未習範囲の授業をします。
・後半は参考書とノートを用いて問題演習を進めます。
・自ら「どうなる？」と予測を立て、「なぜ？」と理由を考える習慣を身につけましょう。
・理系文系を問わず「考える力」を養える授業を心がけます。
・物理の勉強を通して成長する君たちの姿を期待します。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・日常生活や社会との関連を図りながら理解し、入試問題演習を通して知識を、観察や実験などを通して技能を身につける。
【思考力、判断力、表現力など】
・音波や電力消費、発電に関して、理科の見方や考え方を働かせ、見通しをもって観察や実験を行い、科学的に探究する力を育む。
【学びに向かう力、人間性など】
・主体的に関わり、科学的に探究する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	教科書などの忘れ物をせず、授業に積極的に取り組もうとしている。 観察や実験に自ら取り組み、科学事象に対して前向きに考察しようとしている
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	波・音波	波の性質 音と振動	a：媒質の振動と波形の移動、横波・縦波、音波について理解する。 a：「気柱共鳴」の実験の過程や結果を的確に記録し、整理している。 b：楽器の音の高低や強弱について、波という物理現象から説明できる。 c：音という現象について、日常生活と関連付けながら、意欲的に学ぼうとする。	定期考査 実験器具の取り扱い 確認テスト	定期考査 パフォーマンス課題 実験レポート	授業に対する姿勢 発問への返答 授業プリント
2学期	電気	電流 発電 電磁波	a：静電気、電流、抵抗について理解する。 a：「コンデンサーの充放電」の実験の過程や結果を的確に記録し、整理している。 b：直列接続と並列接続で流れる電流の違いについて説明できる。 c：交流発電の仕組みについて、日常生活と関連付けながら、意欲的に学ぼうとする。			
3学期	問題演習	加速度直線運動 運動の三法則 波の性質 音波 静電気 電流 発電	a：物理基礎分野における基礎的な入試問題を理解する。 a：入試問題解法の手順を、流れ図などを作成し、自分なりに整理している。 b：自ら物理基礎の問題を作問し、解法を説明することができる。 c：問題演習に意欲的に取り組もうとする。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度